

Handsome

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長：浜田一哉 編集責任者：野嶋 功 印刷所：東京印刷㈱



4月レクリエーション例会開催！！～30周年記念大運動会～

4月18日(日)、岸本町B&G海洋センターラグビー場にてレクリエーション例会が開催され、会員とその家族約180名が健康的で楽しい1日を過ごした。当日は初夏のような日差しと気温の中、さわやかな汗を流す絶好の運動会日和となった。

競技は準備体操のあと、各委員会の代表選手による60メートル走「中央会スプリンターズステークス」から始まり、子供たちの『お父さんがんばれー!』の声援がグラウンド中に鳴り響いた。続いて子供たちによる「60メートル走」・「恒例だるま落とし」・「借り物競争」と続いた。「だるま落とし」では、制限時間5分にもかかわらず内田和也会員が驚異的な35秒の記録を打ちたて、この日の最優秀選手に輝いた。「借り物競争」では普段あまり一緒に過ごしてくれない(であろう)お父さんと手をつなぐ、子供たちのとてもうれしそうなお顔が印象的だった。その後「委員会対抗の綱引き」・「ドッジボール」と続き、会員とその家族一丸となった「ドッジボール」では会員皆、子供に戻りはしゃぎまわっていた。

昼休憩に入りお弁当を食べたあと「お菓子なおつつあん」に扮した遠藤・岩崎・山城会員に子供たちがアリのようになり群がり、その姿には平和な日本を感じさせられた。午後より「60メートル走」の決勝が行われ、武海会員がなみいる30代を抑え見事優勝を勝ち取った。そして最後に運動会のメインイベントである対抗リレーが行われ最高の盛り上がりを見せた。

競技終了後、各賞の表彰式があり子供たちからも大きな歓声があがった。最後に運動会実行委員長の中本副会長より家族の皆さんへのお礼が述べられ、楽しかった1日が幕を閉じた。ちなみに総合結果は

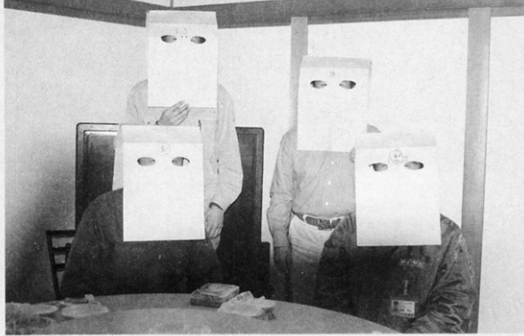
- 優勝「情報メディア・経営」チーム
 - 第2位「国際交流・総務」チーム
 - 第3位「広報・30周年記念事業」チーム
 - 第4位「政治行政・地域ビジョン」チーム
- であった。



(広報：松江智雄)



帰ってきた覆面座談会



今から12年前、5人の男たちが当時の中央会人事を予測して、自分達が引き受けられないことを談合した。人目に触れることを恐れ、顔を隠した密談だったことから「覆面座談会」と名づけられた。その覆面座談会が今回完全復活！メンバーは「綱領がまだ完全に言えない」比較的入会年数の少ない会員。駅前中華料理屋の餃子と烏龍茶を出演料として交渉成立。「未来の青年中央会役員達」の密談を紹介する。

覆面A：みんな、『中央会って何しとる？』って聞かれてどう答える？

覆面B：ズバリ、『将来の営業活動！』僕は中央会の人脈で将来メシを喰っていくんだ（笑）。

覆面C：それはそうだな～（笑）、見えなかったことが入会して見え始めたなんてこと多くない？だから「社会人の学校」かな。

覆面D：俺は「若手経済団体」って胸を張って言うね。それっばいでしょ（笑）。たくさんの人達がいるいろんな主義や主張、考え方を持っているから自分にとってオイシイ所だけいだけいちゃ。仕事には大きく繋がってないけど、楽しく勉強させてもらってるってところが本音。

覆面A：今、話の出た仕事のプラスになっているかっていうのはどう？

覆面C：うちは食品関係なんで、入会したからといって売上がボンと上がるとは考えられない。でも、それとは別に「会社を引っ張っていく」という面ではプラスになっているとおもう。

覆面B：今のところ仕事に結びついていないのでむしろマイナスかも？でも、自分の場合は今後の取り組み方、持って行き方しだいでは仕事に繋がる可能性は高いんじゃないかという感じはするな。会員の皆さん営業してますか～（笑）。

覆面A：そう、中央会が何かをしてくれるのではなく、自分がどう中央会を活かすかっていうことだよ、仕事に限らずね。

覆面D：では、中央会に感じる不満なんてない？

覆面A：自分は、覆面Cや会員の人の「一生懸命やってるからいろんな役が廻ってきて大変だね。」ってよく言われるんだけど、自分が特別目立とうとおもっている訳ではなく、与えられたことをマジメに取り組んでいるだけ。余り目立たず、役がまわってこない方がいいとおもってる人も多いんじゃないかな？でも、皆がマジメに取り組めば、もっと活発な意見が出たりして中央会が活性化されるんじゃない？発足当初やバブル期なんかは、そういう熱いノリだったとおもうんだけど？だから、マジメに取り組んでいる人が会を引っ張って行って、それに乗りかかっていこうみたいな考え方ってどうかとおもうな。

覆面D：他のマスクマンは不満無いの？

覆面B：不満じゃないけど、『言いたいことはどんどん言わないけんっ！』ってよく言われるけどその辺のことはどう？自分はまだ中央会のことがよくわかってなくて言えないっていう部分があるんだけど…。

覆面C：自分もわからない部分はある。でも、わからないから言えるっていう強みもあるとおもうな。例えば、5年経ったら今さら言えないってこともあるじゃないの？年齢はそれなりでも会のことかわかんないじゃない。だから自分は言うよ。

覆面A：自分の考えを言えば人の考えもわかってくる。そこが大事な所で、ケンカになることを恐れてはダメ。そのケンカを根に持つ人は少ないとおもうし、根に持つ人はそこまで。だって「大人の会」なんだから！

でも、今日はみんな良いこと言うねえ。そろそろ時間も無いんで、最後に次年度の抱負を聞かしてよ。自分から言うと、将来の委員長・副委員長を視野に入れて、そういう立場の人達を観察してその時に備えるってとこかな。

覆面D：自分は今まで同様、会員の人達を観察しつつ、いいトコ取りで一層がんばりたい（笑）。

覆面B：まだ新入会員なので、楽しみを探しながら活動していきたい。

覆面C：次年度は、全力投球でがんばっていききたい。

覆面A：よし、最後の覆面Cの抱負は何のヒネリもなくつまらなかったのだからこれにて解散じゃ（笑）。スタミナ丼や味噌チャンポンもう美味しいから次回もここで集まることとすっぞ！

（以下、ヒソヒソ話）

参加者：それにしてもここの餃子はうまかったなあ。〔覆面D〕

聞いた話だと、ここの店長はモノマネもうまいらしいな。〔覆面B〕

美空ひばりとか五木ひろし、森進一とか酒席でリクエストすると必ずやってくれるらしいもんな。〔覆面C〕

みんなもいっぺん試してみたら？ど～も、あじがど！〔覆面A〕

※入会年数の少ない会員は、覆面のメンバーと疑われないよう早い時期に綱領を暗記することをお勧めする！

（執筆ロボット かきマス君1号）

経営委員会「ザ・座禅」

ZAZEN ZAZEN ZAZEN ZAZEN ZAZEN ZAZEN ZAZEN

去る4月11日（日）、経営委員会は清水寺（安来）にて「ザ・座禅委員会」を開催した。日曜日にもかかわらず13名の参加を得たのは、日頃「精神面の修養が足りない」と反省していることの表れかもしれない…。

清水谷善圭直主の「座禅の心構え」のお話のあと、各々座禅の姿勢に入ったが、あぐらができない会員が約3名（怖くて名前は言えません…）しょっぱなから早くも壁にぶつかる不安なスタートを切った。

数分も経過しないのに、すでに「いつ終わるんだよ～」という気持ちになる。足が痛い。耳鳴り。そして誰かの腹が鳴る音が聞こえる（複数）。携帯（パイプ）を鳴らすやつも…。「なんて俗っぽい連中なんだっ！それでも経営者・幹部候補かっ！」自分はさて置きそういう気分になってきたとき、清水谷貫主がそっと心に語りかけてきた。

「みなさん。姿勢はそのままで（←そのままかよっ！）。私の話を聴いてください…。」話は5～10分ぐらいであっただろうか。最近の企業の不祥事から、モラルと志、自分を律する心などを説かれたとおもうが、痛くてそれどころじゃなくって…。「先生すいませんッス！」

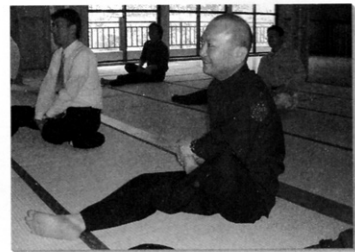
座禅が終了して、貫主様が一言「苦痛ばかりで、誰も私の話を聴けなかったでしょう。でも最初はそれでいいんです。自分なりに徐々に鍛錬していけば良いのです。」とおっしゃっていたのには救われるおもしろい話。

その後、精進料理を堪能しながら、「痛かった～」「ボロボロ」「しんどかった」とか感想を語り合ったあとで、「でも面白かった。またやらいや！」とは誰もが思ったこと。これが座禅の魅力のひとつではないかと感じた。

〈追伸〉

精進料理を食べながら、「あれ？これイカの刺身だとおもったら違うじゃん！！なんだよ～！！」とムカついていた内田和也君。いい加減に天然ボケるのはやめていただきたい。

（経営：植田寿雄）



4月度各委員会報告書

情報メディア委員会

平成16年4月5日(月) 於：日本海情報ビジネス専門学校 出席者/12名
内容/中央会ホームページ最終討論

「会員紹介ページがアイウエオ順ではなく業種別・カテゴリー別で検索できれば」「会員紹介ページに顔写真を入れて簡単なコメントを加える」「HPを持っている企業はリンクを張る」「携帯電話から会員紹介ページを閲覧できるように」「例会・委員会のコーナーを作って確認や欠連絡ができれば」以上のような意見が交わされ、次年度への提言として具体的なサンプルホームページを作成してやることになった。

政治行政委員会・地域ビジョン委員会

平成16年4月6日(火) 於：ホールサムインかいけ
政治行政委員会 出席者/13名
地域ビジョン委員会 出席者/9名

内容/外部講師講演

講師：大樫裕一氏(読売新聞米子支局長)

演題：Dead or Alive? YONAGO!

講師の大樫先生は、観光地として成功している松山市・松江市・城之崎温泉を引き合いに出してから本題を米子市(皆生温泉)へと移された。

「家族旅行が主流になっている現状では皆生自体のイメージがぼやけているのではないか。今の観光客は「そこに行って、そこで見聞し、体験する」ということを求めているとおもう。

結論から言うと、米子・皆生温泉は観光地でない。松山や城之崎のような風情やイメージが皆生にはない。また有名もない。しかし、鬼太郎ロード・花回廊・出雲大社・松江・隠岐・大山など周りに求客力のある観光施設があるのだから、宿泊基地として皆生を中心とした交通の拠点として広域での役割を考えたらよい。皆生温泉の人も知恵を出して独自の観光ルートを作ればよいのだが。」

講師先生は米子市出身で、過去の勤務地と比較してのズバツと直球勝負の講演であった。

国際交流委員会

平成16年4月8日(木) 於：ホールサムインかいけ 出席者/10名
内容/外部講師講演

講師：定光 香氏(国際交流財団米子)

演題：海外研修に於いての体験談

鳥取県内における外国人登録国籍で一番多い国は中国で県内に1,565人。他国の人数も合わせると実に4,376人。

西部地区だけでも約半分の2,145人が登録されているとのこと。
講演後、3グループに別れて「外国人に対しての地域社会の課題」のテーマでディスカッションを行い、問題点をいくつか列挙した。「日本語学校が少ない」「雇用の問題(雇用はあるが賃金が少ない)」

「医療費の問題」「税金を納めても選挙権が無い」「居住エリアに限られる」「道路標識等の数が少なすぎる」「乗り物内の表示が少ない(市内定期バスは皆無)」などの意見が出て、解決方法としては「国・県とのタイアップ」「行政の問題」「官・民の協力」などの意見が出た。

最後に、「物事は他面的に見る必要があります。」との定光先生の言葉をもって閉会となった。

経営委員会

平成16年4月11日(日) 於：安来・清水寺 出席者/12名

「座禅をすると自分をコントロール出来る。自戒を持つことができる。自戒を忘れると欲が生まれる。

最近の出来事を見ると自戒を忘れていた企業もある(リコール隠しの企業、鳥インフルエンザの発覚を隠そうとして倒産に追い込まれた企業等)。

常に自戒を持つことが大事。普段忙しい時にも座禅を行うような時間を持つことが大事。目をつぶるだけでも良い。」

広報委員会

平成16年4月5日(月) 於：大連 出席者/11名
内容/ハンサム5月号編集等

ハンサム5月号の記事案・担当者を決定したほか、委員会報告ならびに卒会寄稿文の打ち合わせを行った。また、30周年記念事業チャリティーゴルフコンペの撮影班の編成等を行った。

総務委員会

平成16年4月9日(金) 於：ホールサムインかいけ 出席者/13名
内容/4月レクリエーション例会打ち合わせ等

「細かいスケジュールの確認」「開会式および各競技の配列、人員配置、必要人数の確認」「各競技内容の確認と必要な備品」「大会役員の確認」「国旗、会旗、周年横断幕などの準備」「備品リストと準備する人の決定、買出し確認」「飲食関係の人員配置と販売物決定」「各種目の得点割」等々を協議し、決定した。

30周年記念事業委員会

平成16年4月6日(火) 於：大連 出席者/5名
内容/30周年記念事業打ち合わせ

各部会の進捗状況について担当委員より報告が行われた。

また、式典当日実施する各企画について趣旨・内容等についての検証を行い、委員会内で決定した事案についてのコンセンサスを徹底した。

今後の活動としては、実行委員会各部の進捗状況にばらつきがはじめているため、再度工程管理を徹底することとした。

第24回全日本トライアスロン皆生大会「両部長の熱き想い!!」

第24回皆生トライアスロンに寄せて

ボランティア部長 畠山広幸

今年も暑い夏がやってきます。国内レース数多くある中で、皆生大会は専門誌によるランキングやアスリートたちにも毎年高い人気を誇る大会です。例年、国内アスリート700名、地元3,000名のスタッフがパワーを凝集させます。しかし、一体何故? 何のために? なにが人をこれだけ動かしているのでしょうか? 少なくとも箇条書きの採点項目で理解できるものではないと私はおもいます。人が動くのはそこに「こころ」があるからだとおもいます。「熱意」とか「誇り」とか「気概」とか。自己と闘う人からは強さをもらい、心からの声援は人をさらに強くします。私たちはASやポイントで、あるいは本場で汗を流しているボランティアを支えます。ボランティアたちからは、まっすぐなひたむきさをもらいます。そして、みんなで素直に感動できることを共有しあいます。そんな「こころ」の交流を通じて、「Cool head & Burning heart」の中央会らしい爽やかさと行動力で、我々も暑い夏の元気の源になれば嬉しいですね。大会まで3ヶ月、元気な部長で突っ走るぞ!

マラソン部長の抱負

マラソン部長 増井幸一

マラソン部は、ランコースの設営だけでなく設計から運営までを行います。まさに「PDCA」を基本に活動するわけですが、毎年コース上の環境が変わります。当日の選手、ボランティアさんの安全確保が一番気をつかう部分ですので、厳しい目で計画し実施していきたいとおもいます。

今年で、部長をさせていただくのは2年目になります。昨年も感じたことですが、部員皆さんの意識の高さと行動力には、頭が下がります。今年も既に、準備作業は進めています。同じ目的をもって「苦しくも楽しい」、自分達のためになる活動にしたいと考えます。

30周年記念事業の活動と合わせて、ポスター貼りなど、会員皆様のご協力をお願いします。



KAIKE TRIATHLON

伝心伝承

当コーナーでは会長、県会長経験者の方々に「中央海」という大海原での羅針盤たる助言・苦言をいただきます。10回目は第26期県会長奥森隆夫OBです。



一 県会長の時の想いを教えてください。

環日本海交流で韓国・江原道との交流を行った。他団体がビジネス交流を行っておらず、県からの要請もあってビジネスチャンスにならないだろうかとおもってやってみた。賛否両論あったが、現地に赴き、経験することでプラスになる面が多かった。各地区にも若くても立派な人が多い。そういった人との人脈を中央会は作ってくれた。卒会して3年経つが、今なおつながりを持っていることはすばらしいことである。

一 周年について聞かせてください。

毎年卒会者があるし、委員会も変わる。その中で、周年という区切りを待たずとも常に周年意識を持って努力することが大切である。実践は辛いからどうしても途中でいろいろな先生の教えを欲しがりますが、ひとつの手法を究めたほうが強いわな。言い方や教え方は違えども、私たちが道を求めていれば教えてくれようとしている中身は同じはずだから。

一 地域に果たす中央会の役割をどうお考えですか？

中央会の中ではどんな大きな会社の人でも同レベル。対等ということ。だからこそ人間性・真面目さが大切になる。仕事をきちんとしている人は中央会でもきちんとしている。これは実体験で感じている。企業人としてのあるべき姿は、良き中央会の会員であることだとおもう。

企業人として、その地域に住んでいることに価値がある。「あれこれしよう」ではなく、当たり前のことをしていれば自然と地域に貢献できる。それを忘れずに、大人の会として考えて行かないといけない。

一 現役会員へのメッセージをお願いします。

自分の会社と中央会を同じ様におもい、行動して欲しい。中央会では人脈を作り、交流を持つことはとても良いこと。それがいずれかはビジネスチャンスにつながる。初めからビジネスで中央会に入るとは大きな間違い。まず、「自分を売り、友を作り、活動すること」が自分の情報発信になる。無理をしないことを前提に、自己研鑽を忘れずにいて欲しい。

会はその信念を変えず、「中央会は何をすべきか？何を理解するか？」を対外的に知らしめていくことを考え、会員ははじめを持って切磋琢磨しながら活動する。そうすれば、もっと中央会はすばらしいものになる。
(広報：中田耕治)

言わしてごしない 真の十

今年度、私は監事という役職に就かせていただいている。監事という役員経験のない会員の方には何をしているのか分かり難いのではないかと？

当会においては「会の会計監査」、新入会員オリエンテーションでの「会の概要・歴史などの講義」、そして役員会の最後に「監事講評」することが監事の仕事である。大辞林(三省堂)によると、「法人の財産及び理事の業務執行を監査する機関。会社では監査役と呼ばれる。」とある。

「理事の業務執行の監査」が役員会での監事講評にあたるわけだが、現在私が在籍している30周年実行委員会・提言部で、メンバーの一員から「監事講評が役員会の進行上の問題などその場だけの講評になってはいないか？」との指摘を受けた。そして私は改めるべきところは改めなければならぬと率直に感じたのである。

当会の会則には、役員として「監事は3名おく」と記してある。因みに「副会長は7名以内」とある。極論を言えば副会長は1名でも良いが、監事は必ず3名いなければならないということである。これは何を意味しているのであろうか？それは監事の仕事の重要性と公正な立場を表わしているのではないかと私にはおもえる。そう考えた上で、監事の役割を今一度考え直してはどうかと提案したい。

提言部で監事の話になったのは、30周年での提言を如何にこれからの当会の運営に反映させていくかという問題においてである。提言を受け取った側の役員がそれを適正に処理するか否かを監視するのは、監事が適当ではないかということである。提言部では会員の皆様に意見を伺い、その利益を第一に考え、提言作成に励んでいる。そんな提言を無駄にしてはならないと誰もが感じているのだ。たとえば役割として監事が提言を見守ることになっても、一番必要なのは会員の皆様が提言をより良い形で実現させたいという想いを声にして出し続けることなのだ。

最後に、30周年記念式典では必ず皆様に納得していただける提言をお出しすることを約束して、私の拙い文章を閉じることにいたします。

(総務：武海 章)

我輩はちどくである！

広報委員会に所属してはや10ヶ月、委員会活動は年度末に向けさらに忙しくなりそうです。

学生時代、文系科目が嫌いで理系に進んだ私が、社会人になり執筆するとはおもいませんでした。やはり今文章を書くのは苦手でして、この原稿も締切日に追われながら書いています。

いざ、重い手を動かし始めるとこれが意外におもしろく、執筆イメージは湧くのですが、その都度うまく文章にするポキャブラリーを持ち合わせていないという問題に直面します。そこで！雑誌やある特定分野の専門書しか読まなかった私ですが、(ちょっと厚い)本を読むことにしました。読み始めるとこれがまたおもしろい！明確な主義・思想をもたない私にはそれぞれの著者の思考や主張に感心し、新鮮な驚きを感じることも多々あります。私の趣味のひとつに「読書」が加わる日も近いかもしれません。(笑)

ただ・・・1冊の本を読むのに1か月以上かかってしまい、このままでは年間10冊しか本を読むことができません。(涙) だれか本を速く読むコツがあれば教えてください。(福)

5月役員会報告

5月定例役員会が平成16年5月6日(木)、食品会館において開催されました。当日の主な議題は以下の通りです。

- (1) 5月例会(臨時総会)、6月例会開催の件
- (2) トライアスロンボランティアの件
- (3) 30周年記念事業の件
- (4) その他

※なお、詳細については委員長までご参照ください。

5月例会案内

と き：平成16年5月17日(月) 18時30分～

と ころ：米子コンベンションセンター

講 師：幸形ノブユキ(こうがた・のぶゆき)氏
(有限会社ジャプロ 代表取締役社長)

演 題：ホームページの現在・過去・未来

～誰も知らなかったウェブサイトの裏側～(仮題)